



課題2-4 身近な遺跡を調べてみよう

1 全国一の遺跡数

千葉県内では、平成18年度までに、28,682か所の遺跡が確認されており、全国1位の数である。その数の多さは、恵まれたちばの自然環境の中で、古くから人々が生活してきたことを示していると言える。

2 最古の石器と貝塚

市原市草刈遺跡では、氷河時代（約4万年前）の地層から様々な形の石器が発見されており、その当時には人々が房総の地に住み始めていたことが明らかになっている。その後、約1万年前ころから気候が温暖化し、豊かな自然環境が作られると、千葉市加曾利貝塚（縄文時代中期：約4千5百年前）のように大規模な貝塚が作られたことはよく知られている。その数は739か所、これも全国で1位である。

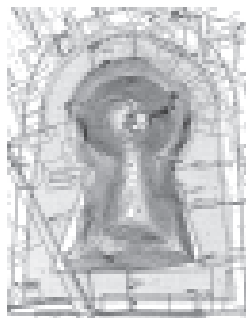


草刈遺跡の石器

(写真提供：(財)千葉県教育振興財団)

3 千葉県を代表する遺跡

千葉県を代表する遺跡としては、関東有数の前方後円墳である富津市内裏塚古墳（古墳時代：5世紀）、天平の仏教文化を象徴する市原市上総国分寺・尼寺（奈良時代：8世紀）、房総を代表する武士の千葉氏の居城である酒々井町・佐倉市の本佐倉城跡（室町時代：15～16世紀）などがあげられる。これら各時代の貴重な遺跡は、国指定史跡として現在も残され、そこでは、当時の文化や技術を感じることができる。



内裏塚古墳

4 遺跡から見える村の生活

千葉県内では多くの発掘調査が行われている。特に、弥生時代中期（紀元前2世紀ころ）から室町（戦国）時代（16世紀）までの遺跡では、人々

の生活の場であった集落、その周辺の水田や畑、墓地などの発掘調査が行われている。さらに、江戸時代では、幕府の軍馬を育てるため、千葉県内の広い範囲に作られた「牧」の遺跡についても調査が進んでいる。



菅生遺跡の弥生時代の水田跡
(写真提供：(財)千葉県教育振興財団)

5 環境変化と遺跡

縄文時代早期（約8千年前）の館山市沖ノ島遺跡では、気候の温暖化による海水面の上昇（縄文海進）により海岸の遺跡が一旦海中に没した後、その後の地殻変動で隆起した様子が発掘調査で明らかとなっている。遺跡は、人間の歴史だけでなく、気候や自然環境の歴史に関する情報もたくさん秘めているのである。



沖ノ島遺跡

6 土地の履歴書・遺跡

発掘調査の成果には、原始・古代以来、人々がどのような場所に住み、どのような風景や自然環境の中で生活してきたかを、具体的に明らかにできる情報が含まれているのである。

遺跡の情報からは、現在、わたしたちが生活している街並みや地域が、どのようにして成り立っていたかを直接知ることができ、遺跡から出土した土器や石器などの遺物は、その情報を裏づける重要な物的証拠と言える。遺跡や土器・石器といった出土遺物は、わたしたちが未来を考えるうえで欠くことのできない過去の証言者なのである。